

を西海小出〜國山のおまやちや察せ〜給ふ
 還り來る國ハ見え給ふ申はまた磯鹿シカの海人名草アマナクサや
 遣ツキ〜見せ給ふアツキ數日経ヘ還り來る西北小山あり
 雲井クモイもみ見え給ふ蓋くみあむむかやぞ白く吾
ウ乃上小見え給ふ阿閉島アヘも糟屋郡ソウヤ小隸ツク磯鹿島も
 同郡志珂郷シカや和名抄見え給ふ下小シノ志加神社の坐
 所地なり万葉集マンヤク糟屋郡志賀村泉郎荒雄と云ふ人此夏
 を記しまた然の海人の軍布イクを塩シホやきイまミみ
 けのをくし取ト見ミくク小やコ歌ウタあり金葉集キンヤクもつ
 くの志可の島を見く為助つれなく見ゆり志の島か
 ら國忠弓も望の月のゆるみもたゞらタゞラ連歌を
 載せ夫木集ウツキうウひヒがガ夕ユフまマがガらラまマがガらラれレハハあアを
 のノ田タふフ千鳥チトリ志シ鳴ナくクゆユ二人を遣ツキ給ひハハ謂イハゆ
 るル郷導を以モ敵國の情態を視せまシせセるルみミまマあアをヲ
 けく吉日と卜ウラ合アを定サめく船發フネタテさせむや給ふ時皇后親

ら御戈を執〜御軍小令オノ給ひくハ金鼓カネツもきたるを
 旗ノボリ旗ノボリまがひみださる軍人イクサの志財を貪オホり欲ホシれ
 けく私をシつたき内ウチ小あをコみせ必敵カナラシのやをヤ成ナる
 必敵カナラシ少くやも悔イタるルあやなく敵多くやもたをタをヲうウげ
 きた御軍小佐オノあ者ハ詩ウタ〜自ら服ヒひぬものハ殺
 せむふあむ戦タケうら人を必賞物カナラシあるを逃ニゲ走るもの
 ハ必罪ありむもはむやむ誓チカひ給るル御戈を元書モト小斧
 の説小因コ改記カキせ玉はゆ〜此御令を徒小漢文の修飾カガや
 らラ嫌イヤふ人もあれや上ウ古コもかカる軍令ハ必あ
 るまあと上小あげたる言コト拳ケン前の故事小考合カり知らり
 せん今ハ本書のまマ小録ロクつ古代の編ヒ伍ボの制セハハ有
 るむ攻ウツめを便タり大密令オホヒソカハ兵士五人を伍ウヤヤ伍二
 を火や為火五を隊ウチヤヤ隊正二十人ありくあれをヲ給ふ

隊二つを旅ヤソひ。旅帥十人ありく。あれを給ふ。旅二つを
授ヤソひ。校尉まねを給ふ。かく兵一千人。小満れ。大教
一人。少教二人。こゝを統領。六百人以上。少の。大教少教各一
人。つゝをわかれ。五百人以下。一教一人を置く。まゝ兵一萬
二千人以下。一万人以上。將軍一人。副將軍二人。軍監二人。
軍曹四人。録事四人を任け。是を領せ。給ひ。九千人以
下。五千人以上。將軍一人。副將軍一人。軍監一人。軍曹四人。
録事二人を任ず。四千人以上。三千人以上。將軍。副將
軍。軍監各一人。軍曹。録事各二人を任ず。まゝ。率わ。め
給ふ。右の。あれを一軍ヤソひ。その三軍を總率。ふ
の。大將軍一人を任。給ふ。委
く。軍防令を見。知。給ふ。委
給。我。和。寬。の。大。御。身。小。旺。さ。く。御。壽。を。守。奉。了。荒。魂。の
先。鋒。を。爲。く。御。船。を。導。き。さ。く。む。や。宣。給。ひ。くれ。ど。や。が。く。御。教
の。ま。よ。く。依。網。吾。彦。の。男。垂。見。や。ソ。ふ。人。を。神。主。と。し。拜。禮
ひ。奉。り。給。る。を。如。く。聞。ゆ。れ。や。必。住。吉。大。神。小。ま。は。り。莫。の

上。小。記。せ。り。大。神。の。御。詔。小。我。の。御。意。を。船。上。小。ま。は。り。云。云
や。宣。玉。ひ。後。小。韓。國。を。平。く。旅。に。坐。り。時。小。御。託。言。あ。り。く。
荒。魂。神。の。長。門。國。小。留。ま。給。ひ。和。寬。神。の。津。國。小。鎮。ま。給。る。り
小。相。昭。應。く。知。ら。り。め。り。を。石。乘。集。を。り。天。平。五。年。贈。遣。唐
便。歌。小。虚。見。つ。山。跡。國。音。小。よ。り。平。城。の。都。ゆ。わ。り。る。難。波
小。ら。だ。を。住。吉。の。三。津。小。船。乘。直。り。たり。日。の。入。る。國。小。つ。り
ま。は。ゆ。我。の。せ。は。君。を。か。け。ま。く。も。ゆ。り。か。り。ま。き。墨。の。江
の。吾。大。御。神。船。の。倍。小。宇。之。ま。き。つ。ま。り。ふ。れ。や。も。小。御。立。り
ま。は。り。は。り。よ。り。む。む。の。崎。々。あ。ぎ。ま。く。む。泊。る。く。ふ。あ。り
き。風。浪。小。あ。を。せ。び。乎。ら。々。率。り。る。り。ま。せ。本。の。く。ふ。る
小。勝。密。三。年。多。治。真。人。土。作。歌。住。吉。小。つ。く。祝。り。神。言。や。行
く。ま。も。来。や。も。船。ハ。早。々。む。む。と。詠。る。を。も。思。ひ。め。り。袖。中。抄
小。引。る。江。記。小。神。功。皇。后。新。羅。を。伐。給。ふ。時。ハ。住。吉。ハ。大。將。軍。
日。吉。ハ。副。將。軍。將。門。追。討。の。時。ハ。日。吉。ハ。大。將。軍。住。吉。ハ。副。將
軍。を。り。や。あ。り。を。古。事。談。續。古。事。談。小。ハ。住。吉。明。神。の。託。宣。や
せ。り。ま。も。考。合。は。る。依。網。吾。彦。を。記。小。開。化。天。皇。柳。子。
建。豐。波。豆。羅。和。氣。王。ハ。依。網。之。阿。毗。古。等。の。祖。を。り。や。見。え。姓
氏。録。小。ハ。依。網。宿。祢。と。開。化。天。皇。の。皇。子。彦。坐。命。の。後。たり。や
あり。く。傳。ハ。異。な。れ。と。遠。く。ゆ。皇。座。を。り。後。小。姓。氏。や。成
り。る。を。り。る。和。名。抄。小。横。津。國。住。吉。郡。大。羅。鄉。於。保。与。佐。美

やあゝの斯子孫の居住れたる地を其續絶天平勝富二
年記ふ同郡人外五位下依羅我孫忍麻呂五人依羅宿祢
の姓を賜ふと有る同郡式内なり大依羅神社四座やあ
る此氏人の祀られしや聞ゆるみくつや灼然されむ
あゝの郡小依羅氏ありも住吉神小由あり微やあを
ハ和名抄播磨国明石郡垂見多留美やあを依り訓むを
ハ此時奈水社ハ古人もいふ如く神名帳小筑前国那
珂郡住吉神社三座并名神大廿一社記ふ本住吉やあは是
小く皇典天平九年四月の下小新羅の无禮なり一状を神
宮及筑紫住吉神小勅使を遣ふ告させ給ふあや見ゆ
貞觀元年正月无位住吉神小從五位下を奉り給ふ中右記
元永二年四月廿六日條小筑前国住吉社可有遷官也云云
斯仰下件吉七月三日若八日と記せり出の社今ハ村中
をれ元ハ社の下方も海水さ入るる故小筑紫道
紀小住吉の松林海辺やあナ小皇后檀日宮を發せ給ひく
あゝや貝原氏ハるるナ小皇后檀日宮を發せ給ひく
貝原氏云古傳小皇后韓小渡給ふ香推の西黒崎上
里御船小給ふ此時軍卒を簡閱給ひ各其名を記し
船小乗せ給ふ故小あやを名々く名島やいふ此所ハ宗
像三神を祭り給ひ異国を從ふあやを祈り給ふ故小後

代三女神社を 建く崇奉る。 やう糟屋郡資珂島小幸るあや九筑前風

土記ふむく 氣長足姫尊新羅を幸せる時御船夜來く此

島小泊たるまき 大の島小ハ神名帳小志加海神社三座并名神

津見大神やう海原を總掌し給ふ神鎮坐る万葉集小千は
やあゝ金の御埼を々ゆゆや我ハ忘れし志加の皇神を
や詠く古人ハ海を度る時ハ殊小祈請せし由たれハ大の
度ハ殊小絶海への御舟出の時たれハ海路の幸を請奉り
小行幸せしあやあり此神の磯童やいふ人や化る御
柁と取まらる事細川藤孝主の記行よ志賀の島小つとる
由有るなる細川藤孝主の記行よ志賀の島小つとる
官司坊小宿里録起たや見ろ浪あき塩于の松のか
つら島小つとる海の中道當社の神詠のよ社僧
の申しとる又香椎神詠ハ山よつとる一句易く
あり立出く見ろ砂の速き三里許も海の中と分く嶋小
續き侍り取分く細き河ハ十間許廣き河十四五間も有り
や見えとる當社の安曇磯良く神功皇后の異国退治の
時龍官より出く兵船の柁取ふ海上の志るを神や

志あり打詠め。名ありたふ。龍の都のあやどめ。波を分
行く。海の中道や見え。詞林采葉抄をよみ。皇后三韓を責給
ふ時。鹿嶋香取両社。天の御札ふれ。其銘曰東大神表矣
やあり。此。磯鹿島を。或は鹿島。書り。至記。ゆかや
も思へ。香取志等。小つる。如く。鹿島香取大神も別あり
御軍神。小坐。此。時。御力を加給ひ。く。さ。れ。や。正。し。き
物。あり。つ。ま。だ。御陪。従。小。大。濱。小。濱。や。い。ふ。ゆ。と。ま。の。人。従。ひ
奉。了。が。便。小。濱。小。勅。ね。せ。く。志。島。小。遣。と。く。火。を。覓
は。せ。給。ふ。速。々。得。く。歸。來。了。か。大。濱。あ。く。小。近。く。人。家
あ。ま。や。問。ふ。小。濱。對。つ。此。島。や。打。昇。の。濱。や。近。く。相。續
ま。く。殆。同。一。地。や。い。ひ。つ。る。や。い。ひ。つ。る。故。近。島。や。名。け。し。と
今。訛。く。資。珂。島。や。い。ふ。肥。前。風。土。記。を。値。嘉。島。の。故。夏。や。い
珂。郡。小。隸。く。や。い。ふ。貝。原。氏。云。ハ。十。柱。津。日。神。大。直。時。神。神
直。日。神。も。軍。衆。を。警。固。し。勇。氣。を。振。ち。給。ひ。故。小。後。那。珂

郡。福崎。小。鎮。に。坐。る。警。固。大。明。神。や。申。り。ま。し。志。摩。郡。岸。浦。在
吉。社。説。よ。皇。后。此。所。小。花。を。懸。く。明。神。を。祭。給。ふ。故。小。こ。れ
を。花。懸。明。神。や。申。り。ま。し。皇。后。の。宇。添。里。と。い。ふ。全。國。怡。土
あ。な。た。ふ。復。故。あ。ま。陸。路。を。幸。行。せ。成。る。郡。兒。饗。原。小。至。了。ま。せ。る。時。も。身。ま。せ。る。御。兒。産。ぶ。月。小。當
り。忽。小。誕。生。ま。し。や。い。ひ。つ。る。皇。后。や。い。ひ。つ。る。御。腹。を
鎮。ひ。給。ふ。爲。小。二。顆。の。石。を。取。ら。し。御。裳。の。腰。ふ。ま。さ。く
祈。ひ。給。ふ。朕。西。國。を。征。平。む。此。野。小。來。了。ま。ぬ。御
腹。を。御。子。い。若。神。や。坐。さ。し。事。を。入。り。歸。了。御。産。後。産
ま。給。ふ。誓。ひ。給。ひ。つ。る。世。小。婦。人。の。姓。身。た。り。忽。小。娠
動。け。ば。裙。腰。小。石。を。搦。し。時。を。延。し。む。る。志。や。い。ひ。つ。る。地
始。り。し。志。の。二。石。は。肥。前。國。枝。杵。郡。を。平。敷。了。地。の

石少御卜合なる故小取來さるや

此條ハ筑前古風土記又同延長の

撰や見ゆの記と万葉集とを合取りて源平盛衰記ハ皇后
懐胎月満ち産月なり。産月を解給ふ時御産の氣出さる
給ふ皇后仰せし云胎内の皇子體小聞召せ奉本朝を守ら
む為新羅の異賊を攻むや。遙小海上小洋ふも一今生也
給ふ必水中の鱗や成給ふ。君我國の主や成給ひ百
王の位小即せ給ふ。異賊を従ふ本朝小歸。異國へ渡り
給ひ。宣命給ひ。御産の氣留。異國へ渡り
る時儼より力を付むや。異國へ治らぬや。
ふ莫あまや。長埼夜話。長埼を去る。一里餘。平宿
留。地。燧石を出。色赤白。玉作。等。を。鎮懐石の
鎮。地。深江村。長奇。古。深江村。
玉。浦。由。あま。か。大
神の荒竈神を招奉。御軍の先鋒や爲。和魂を請せ。皇
皇后の御船の鎮めや爲給ひぬ。
上。荒竈神。とハ神等の神靈の

徳用と名。全体の御靈。又別。記傳
小季。見ゆ。此時御た。船。美奴賣神の献。神船。更。塵袋。日向国。古。濃。峯
や。神。吐。大明神。申。昔神功
皇后新羅を討給ひ。時。神を請。給。船。軸。護。傳
給。云。尚。下。引。必。日向。風。土。記。の。傳
。和。名。抄。同。郡。小。觀。嶽。郡。野。及。韓。家。を。と
。神。名。帳。小。都。農。神。社。同。郡。小。あ。誰。も。と。を。ツ
。若。く。ハ。ト。か。は。皇后。肥。前。國。松。浦。郡。逢。鹿。驛。小
。非。け。か。往。合。ひ。奉。里。か。其。處。を。名。け。遇
。時。鹿。往。合。ひ。奉。里。か。其。處。を。名。け。遇
。常。陸。風。土。記。か。り。遇。鹿。里。また。登。望。驛。を。過。け。せ
。の。故。事。や。く。似。た。ま。也。また。登。望。驛。を。過。け。せ
。小。男子。の。御。裝。ま。せ。御。臂。の。鞆。此。村。小。落。た。ま。し
。呼。く。鞆。驛。や。い。備。後。國。沼。隅。郡。鞆。浦。も。俗。説。小
。皇后。あ。舟。楫。を。揃。へ。兵
。地。渡。や。所。小。鞆。も。舟。楫。を。揃。へ。兵
。給。ひ。傳。へ。万。葉。集。ふ。よ。く。行。く。又。見。む。ま。し。を

の手小巻きもた。鞠の浦まをなが見え。古より名高き
 所を記傳小下引く。天平八年遣新羅使の詠歌を引
 く。初小御船發あり。此浦より有る。久く古韓国小渡
 る。松浦佐用變が故支をどお。万葉集五小見え。宇佐許宣集
 云。松浦沖小。甲衆を集め。宴饗を賜ふ所を神集
 島とす。其時の土器を弄す所を土器崎とす。か
 彼杵郡周賀郷小至ま。御船を此郷の東北の海小撃ツキ
 ませ。時の艦船の狀歌磯や化。後世ま存アま。磯の高さ二十餘丈周十餘丈相去る。高き十餘町。指ササ草木小得生エま。此時御徒の船難風小あひ。浪小漂タマひ。甚危トキく。土蜘蛛名バ鬱比表麻呂ウツレヲや。者其船を拯スひ助スかむ。や。此所を名々ス拯スの郷や。

今記す。周賀郷や。逢鹿驛トモ以下。肥前風土記小依。壹伎嶋イツキおつ。給タマひ。古傳や。因ユり。神名帳小。此島壹伎郡住吉神社やあり。蓋此時に齋奉給ひ。延喜十八年十月十五日壹伎島言上せ。解文を擧。手長比賣明神社住吉明神社太鼓の如く鳴動。御体の美石密殿を出る地上小在。上引。播磨風土記の伊太代神の御大式小あ。上引。同社小并。兵主神社名神。此社小從五位上奉られ。壹陽雜志小。河北村小在。正一位とす。傳ふ。見ゆ。又次對馬嶋小泊トモ給タマひ。全島下縣式小海神社。名神大。和多都美神社合せ。三社和多都郡住吉神社。名神大。和多都美神社合せ。三社和多都美御子神社。坐せ。共小。此時祭給ひ。美和四年二月の紀小。奉授對馬島下縣郡无位住吉神從五位下。貞觀元年紀小。從五位王を奉られ。十二年正五位下。元慶三年從四位下を授奉ら。此社今与良郷雞知。此小在。神階從四位上。玉勝間小有。此小尔。保都比賣。

命の誨給ひし授きせり。赤土を天の逆祥小塗りし神船の
艦舶小立まり御舟裳及御軍人の著たる衣を染しめまた
海水をかき濁し。此條ハ播磨風。冬十月三日和珥の津よ
り發給ひ。記傳云。今津島上縣郡小鰐津鰐浦より舟出
し夏ハ佐瀬奈浦より舟出たり。或人より好古云。御軍を整
る御船を連雙く度幸ひ時。太平記小樓船三千餘艘あり。こ
ろ高飛ふ鳥等も往來る前を遮らば海中の大きき
魚も悉く御船を負ひたし風盛り吹き御船櫓楫を
かき波のきり行き。やがて新羅國より舟を坐る時
其御船の浪新羅國小押あがり。既小國の半より舟を

ぬ。即天神地祇の御助や知られたる。古説小住吉大神白髪
若人化りて導給たり。

る。宣るるハ磯鹿島を安曇磯童より召く龍王
の許小遣りて于珠満珠を借給たり。其の二珠た不得ま
し。三韓ハ自ら服ひたしや宣るる。皇后より其を
召給る。便きや詔へて若人。此童細男の舞を甚く好む。ま
や宣るる若人御徒の人等小音樂を爲し給る。翁みづら
ら舞ふ。即舞ひ遊給ふ時。磯童龜甲小乗る。海中より
出く。供奉する。かく異國を指し渡坐せり。時海中小
く皇后御妹河上大明神豊姬命も亦弓箭を携へ甲冑さく
從給る。以命と磯童と龍宮小遣りて借し給ふ。
三月經る。青珠白珠より得る返り。色青きハ滿
水珠。白きハ旱水珠。各二寸許あり。武内大臣。此珠を海
小投給ひ。三韓降伏せり。磯童やハ鹿島明神あり。大臣珠
を奉行し。故小高良玉命と稱し。申は二珠ハ肥前國
佐賀郡河上宮小納奉る。宇佐詔宣集小引る。聖母大菩薩
縁起及宇佐縁起石清水縁起愚童訓伊呂波字類赦等小見
也。磯童志加神より夏より信らぬ。豊媛命の海宮小
行。小実なり。信友説小氣比社旧記小玉地

命一名空津媛又名淀媛命皇后妹也やあを引く玉妃や
 八二珠を得まゝ此時小珠た功を建給るより申せ
 る御名を委と論る此命のあを引く玉妃を
 新紀小神代の潮満瓊潮満瓊を引く玉妃を
 先師云元暦の頃宇佐宮の注文云二種當官ふあを引く玉妃を
 征伐給ふ時小新羅の国へ海潮の満一ハ若くハ此瓊を持
 せ御ふふやや問ふ先師云宇佐宮ハ應神天皇姫神大
 帶姫三所鎮まされ二種已不當宮小在皇太后の韓征の
 時新羅の宮庭小海潮の満一ハ就く思召ハ定く此瓊を持
 せ給ふや然れや慥なる所見かやあを引く玉妃を記傳委論
 ひく大后の持給ふハ韓國言向給ひ珠ハ神代二珠ふ
 や有るは將の海中より得給る如意珠少やあり多
 云云や其ハ何れあを引く玉妃今ハ御船の浪の国の半
 まく押あがり一更ハ実ハ其珠の功なる奇く異
 神の御所為申るも更なりやあり尚此時小持給ひハ海
 今新ふ得まゝ珠も有るは二珠の納りハ海
 按名蹟考小四説をあげたれや信友説の如く河上社
 小在やせの傳 小新羅王波沙寐錦皇朝史畧小三國史
記東國通鑑小婆娑

臣師やソウの跋也やソウの紀の一書 恐むまがひく爲む
 小ハ王名を宇流助富利智于とあり 新羅の國始まよ
 まべ知らば則諸人を集るよや 新羅の國始まよ
 王海水の國小登るあやハソウた聞は若くハ世の限あ
 國皆海小なるあやあはひやソウま言ひも訖るぬ
 間小船師海原小満ちハタ 旌旗日小輝きカキ 笛鼓鳴動ヒフタ きく山川
 みれ振ヒ ぬ古史傳小天皇の始く高御坐小即給ふ時ふ
旌旗立るソウ上代も有ぬハ鼓吹を鳴
 びくもあを引く玉妃極く磐笛を吹く思召たりや此段
 を引く説れより柿本朝臣の歌小整ふハ鼓の音ハ雷の聲
 中聞まぐ吹かせる小角の音ハあを引く玉妃ハ虎
 吼るや云云やありあを引く玉妃ハ似たり 新羅王振
 けけ見え思ひの外なる兵の來く吾も國を滅きむやする
 そや思ひたぢらあを引く玉妃ハ醒く言ひけらく

東オホヤマト小大日本ヤマトヤツビツく神國あり。神國ヤツふ字オホオホ始ハジメく
 目と憚オソられ來キる故コト實マコトヤあり。西籍シキ概論カイン論ロ。此文コノコトを引ヒキく神國
 ヤハ皇國ミコクふく我ワレはタふシたるコトふクはシ外國ウチノクニよりヒかく申
 論コトをヒたり。また天皇命ミコノミコトノミコトヤ申マカしテ。聖ミコトの君ミコまシはシヤ聞キけ
 ハ必カナラしテその國クニの神カミ兵ヘイなるコト。手テ向ムカひ奉マツるコト。念オモひシあハらシび
 ヤツひク。圖籍ツヅミを封カケめテあハらシく。皇船ミコフネの前マタふシお來キるコト。奏マツし
 くるハ。今イマよシまシゆクはシきテ。大皇オホミカドの命ノミコトもシく。御馬飼ミウマカヒをシく
 年トシおシふ船フネをシめテ。船フネをシてハ于ホはシ棹ササかチ乾ホさシ。天地アメノチのむ
 た常トコヤツふ仕奉シマツらシびヲ申マカしテ。記傳キデン小御馬ミウマうヒとシ為ナむコトハ
ハ中ナカ小殊コト。單ヒトまシ此コノ職シヨクをシ。仕奉シマツらシびヲ申マカしテ。神カミ有
 深フカく厚アツクく服ウヅ従ツふコト。新羅シラ王ミコの語コトのシ給タマふコト。心ココロ底ソコ小コト微ヒれル。上ウヘ種タネ々々の神カミ異ヒありク。故コト小速コト小服ウヅ従ツひ奉マツ

一ヒトなりシ。夏ナツトク味アジひテ察サツらシ。乎ナニ惟タカ靴カウ朝臣アサノミ歌ウタ小日月コヒツキの行ユク
 き星ホシのヤツやツミハ。易ヨシらシヤツ。新ニホらシきノ国クニハシ。花ハナハシ。かシらシ。こ
 の故コト夏ナツとク詠カガ。重オモねク誓カケひシ白シロゆク。東ヒガシよシまシらシるコト日ヒの更シ小西コニシ
 小コトいク。またマタあハらシたレ河カハの逆サカはシふ流ナガはシ。及ツキ河カハの石イシの昇ノボりシ
 天津星アマノホシヤツ化ナるコト。春秋シュウシュウの朝貢アサノミを闕カケぎテ。梳鞭シラヒの御調ミツキを止トメ
 めテ。天津神アマノカミ地チつ神カミ共トモふシつみナひ給タマはシヤツ申マカしテ。俊頼トシノリ朝アサ
 偽イツヅメの誓カケひシ。わカむコト。君ミコが代カタを大帶オホオビ姫ヒメ小任トシせシ。みコト。和ニヒ
 泉式部イヅミシクベ集ツクふコト。あハらシ。君ミコを忘ワスレふコト。河カハのなハらシ。あハらシ。なハらシ。
 川の石イシハシ。つク。夫木ウツキ集ツクふコト。大空オホソラ小河コノカハ。石イシハシ。井イヅをシつク。
 星ホシヤツ。君ミコハシ。皆みな右ミダの故コト夏ナツふコト。因ユヅルるコト。中ナカの鴨カモ緑キナンド江エ
 リナレ河カハハシ。彼國カノクニ小三ミ大河オホカハヤツ。名ナ高タカくシ。中ナカの鴨カモ緑キナンド江エ
 小梳シ。梳鞭シラヒの御調ミツキヤツ。御馬飼ミウマカヒ小成ナリ。信シノブ物モノヤツ。
 時トキ小或オホ人ヒト新羅王シラノミコを誅ツクなシ。むシヤツ奏マツはシ者モノあり。皇后ミコノミコト詔ミコトノミコト給タマはシく
 小の國コノクニハシ。本ホよシ皇神スメカミ等トナリの御教ミツキあり。授賜ウケタマるコト國クニをシ上ウヘ

軍中オホセ小弼冷オホセ自ら服ふ者ハを殺しつゝヤソレをマさシ今イ既ハ小
財オホセの國ヲを獲ヘく人ノの自降服ヲるヲを殺シつゝヤソレをマさシ祥サカなきヤ
や詔ヲひク即チ去レれヲ許シ遣ツるヲ御ミコ飼部ヲ定メ給ヒ遂ニ其
國中ヲ入リ坐ス重タ寶カラありテ府庫ヲ封メ圖籍ヲ文書ヲもヲ取ツ收メ
めはせ給ヒ皇后ノ杖ツカせタ御ミコ牙ヲを新羅王ノ門ニ衝ツき立タ
後葉ノ志ヲくシや爲ナせ給ヒまた墨江スミノエ大神ノ荒御ツキ魂ヲを國
守ヲしテ神ヲや祭鎮イハヒシツクめ奉テ給フ奉テ長門ノ國ニ鎮
すレ見ル彼ノ國ノ其御ミコ牙ハ今ハ猶モ新羅王ノ門ニた
へノ更ヤを聞ユこト樋河上ノ天淵ノ記ヲ愚童ノ訓ヲ石清水ノ縁起ヲ等ノ異國ノ凶
大キ磐石ノ面ニ御弓ノ新羅王ノ門ニ立テ木ヲ置キ御ミコ牙ヲ朝
や書セ給ヒ御銚ヲ彼國ノ王官ノ門前ニ立テ木ヲ置キ御ミコ牙ヲ朝

あり今世大追捕やソレふレ異國ノ人ノ民ヲを大ニ象スて
敵軍ヲ射テ表示たり官軍ヲ引退ス後ハ未代マにシの申たり
や火ヲ以テ彼石ノ文ヲ焼失スこト西籍ノ論ヲ或レ説ヲ引テ信ヲ成ル
今ハ有ルやあリ西籍ノ論ヲ或レ説ヲ引テ信ヲ成ル
色ヲ大后ノ聖知ヲ雖モ漢字ヲ已テ用テ給フこト世ノ人ノ讀得ルをコもハありレねハ
中ニ世ノ俗ノの國ニ真野朝臣ノ祖ニ大矢田宿禰ト
鎮守將軍ヲ爲シ留め置セ給フ此ハ姓氏録ニ依リ宿禰
子武振ノ命ノ子ニ彼國ニ在リ國王ヲ猶モ禰ノ女ヲ娶シて
佐ト久命ノ武義ノ命ノ子ニ生テ給フこト併ニ
同書ニありテ小新羅王波珍ノ子ニ岐微ト比レ已ニ知ヤソレふ者ヲを實
出スたりト波珍ノ子ニ岐微ト比レ已ニ知ヤソレふ者ヲを實
波珍ノ子ニ岐微ト比レ已ニ知ヤソレふ者ヲを實
未斯欣ノ子ニ奈勿ト王ト金銀ノ彩色ノ綾ヲをカキテ縑ヲ
子ニ納メ弟ヲをカキテ縑ヲ
八十船ヲ積入シ官軍ヲ従テるヲ獻セりテ新羅王